



拠点を有した企業で、日本国内では四日市市に製造部門を持っていましたが、市長のお話のとおり、増産のため新たな工場の建設先を探していました。それも、できれば四日市市からあまり遠くない三重県内の場所ということです。これまで経験を積んだ技術者やスタッフを引き続き、新たな工場で雇用することを考えていたからのようです。

今回の津市への進出に当たっては異例のことが2点あります。1点目は四日市市の全てのスタッフが津市へ異動したこと、そして2点目は同社の本社機能が東京から津市へ移転したことです。

本社機能の移転が意味するところは、今後も津市での拡張が見込まれているということとあわせ、津市の新たな工場を単に生産部門だけでなく、経営管理部門、営業宣伝部門の拠点とするということです。さらに、これまでは主に日本国内向けに製品を生産していたのですが、今回の津市進出に当たっては国内向けの生産拠点だけでなく、東アジアやその他アジア諸国への輸出基地としても発展させたいという同社の意



図があったのです。今回のケースのように東京に集中する本社機能を地方へ移転するという動きは、ここ最近、日本でも進みつつあります。

**市長** 津市への進出が単に国内向けの生産拠点のための新工場の建設だけでなく、アジア地域への輸出を統括する責任部署を伴って、本社機能自体も移転されることに大変感謝しています。また、同社が製造する断熱材製品やそれに関連した産業ソリューション製品がもたらす省エネルギー技術は、これからの日本のエネルギー政策を進める上で大変重要だと考えます。ベルギーの企業はこうした省エネルギー分野の技術に長け、欧州だけでなく世界各地にも広く浸透していますね。



**大使** 実はベルギーと日本はエネルギー政策に関してとてもよく似ています。両国とも従来型の化石燃料、すなわち天然ガス、石油資源などに恵まれていないため、エネルギー資源を輸入に頼っています。そういった中、ベルギーでは率先してバイオマス発電をはじめとする再生可能エネルギー政策を推進しています。一方、省エネルギー対策も進めており、その解決策の一つとして同社の断熱材製品があります。これらを活用することは省エネに貢献し、私たちのエネルギー資源への依存を減らすことにもつながっています。

**市長** ベルギー国内における再生可能エネルギー政策や省エネルギー対策がしっかりと進められているからこそ、企業の技術レベルがどんどん進歩していくのですね。

私は市長就任前、ベルギー資本の金融機関「デクシア銀行」に勤務していたことがあり、